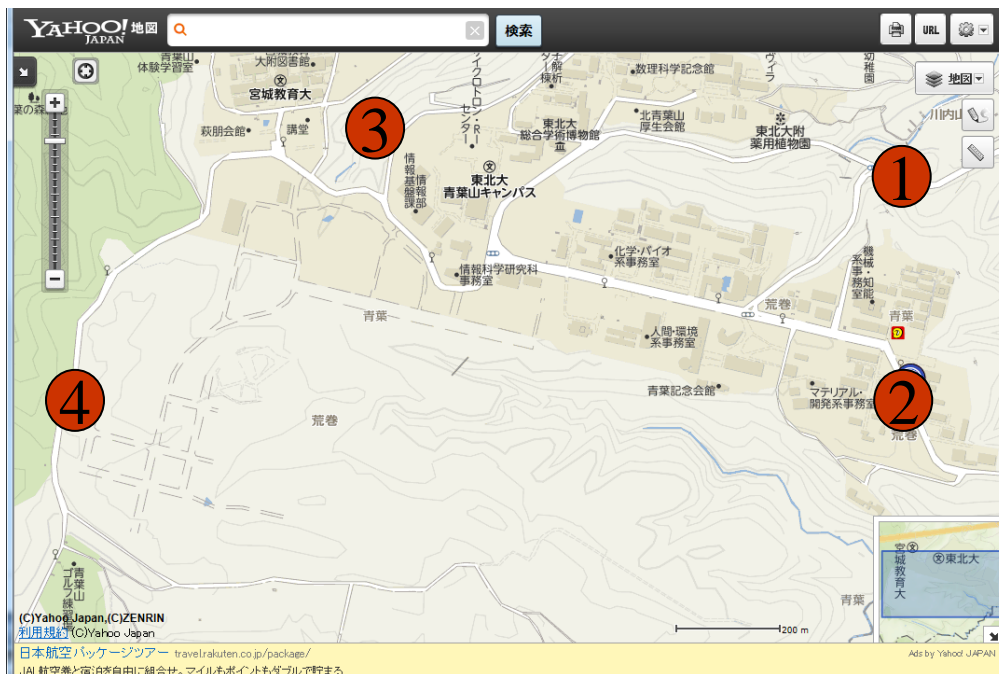


簡易型トラフィック・カウンターによる 東北大学青葉山キャンパス 交通量調査の概要と安全対策について

1. 簡易型トラフィックカウンターの概要
2. 設置方法
3. 安全対策
4. 調査地点 : 最大4地点(p3-p4)
5. スケジュール : 平成27年9月18日～平成28年3月25日



調査目的: 地下鉄東西線開業に伴う青葉山キャンパス地域の交通量観測を行い、自動車・バイクの利用動向の把握と利用促進策検討の基礎資料を得る。なお、仙台市道青葉山4号線工事(2015年10月～16年2月予定)に伴う通行止の影響を把握するため、その工事期間をはさむ形で調査期間を設定する。

1. 使用機械の概要

下記の調査機器を用いて交通量の観測を行う。

■超音波式トラフィック・カウンター(SDR)

- ・簡単な設置で通過交通量・車長・速度などを計測

今回用いるSDRは、ドイツで開発された可搬型の交通量調査機です。超音波を発信し、ドップラー効果の原理で通過車両の通過時刻、車長、速度を自動的に計測します。

路側の電柱や歩道橋に簡単に設置でき、特別な工事が必要ありません。

サイズ：300mm×350mm×150mm

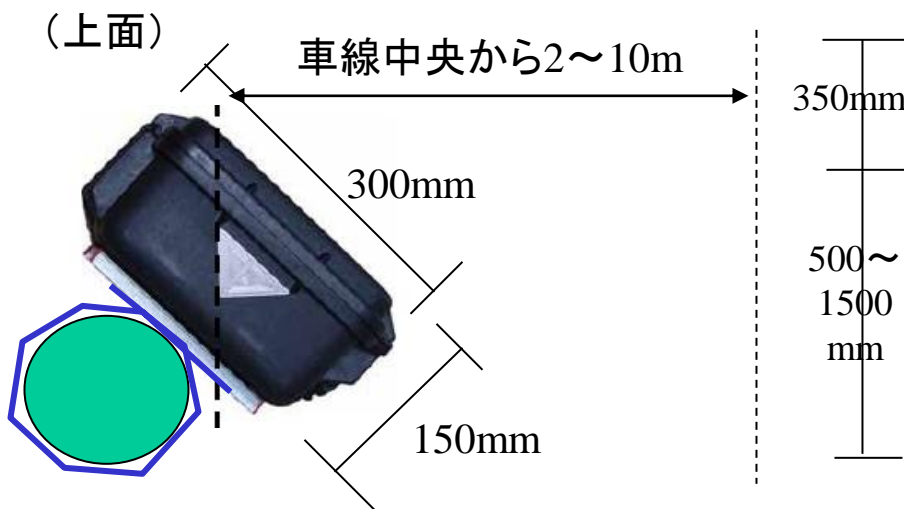
重量：4.7kg+バッテリー6.3Kg



2. 使用機材の仕様と設置方法

ステンレス金具とボルトにてポール等(直径60~250mm)に設置する。

内面にゴムシートを巻き、滑落やポールの損傷を防止する。
車線に45度の方向で固定するので、歩道側には突出しない。



3. 安全対策

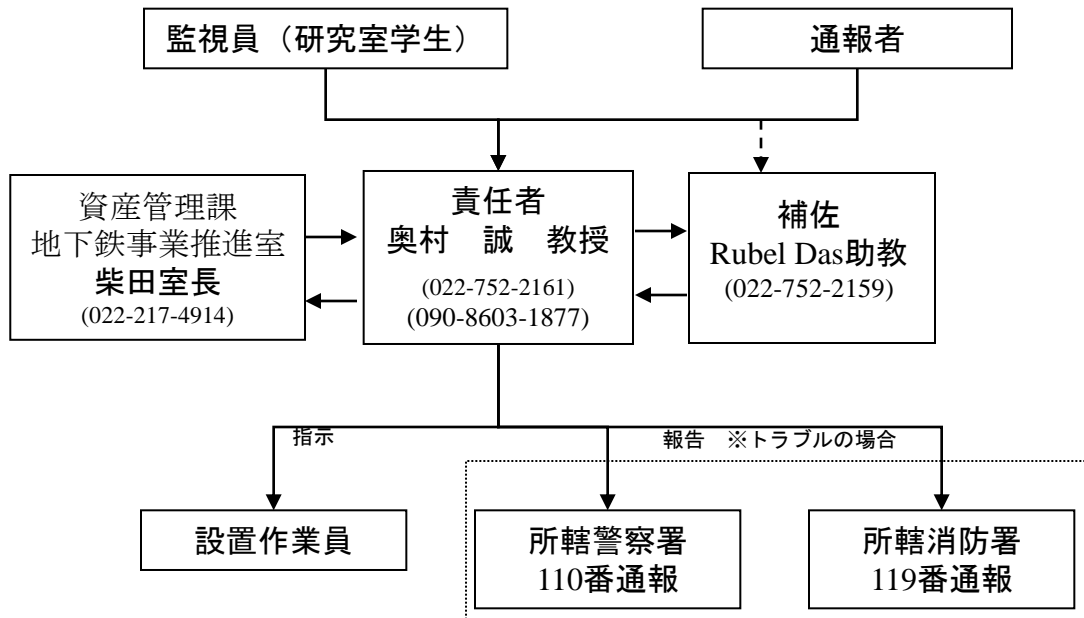
1. 機材設置に伴う各種許可

- 調査を行う道路の道路管理者(青葉区役所)に、あらかじめ利用内容を説明し許可を受ける。
- 機材を設置、固定するために、照明柱など公共施設を利用する場合には、各施設管理者(青葉区役所等)にあらかじめ利用内容を説明し、許可を受ける。

2. 点検巡回

- 設置期間中は適宜、監視員が機材の点検を行う。
(奥村研究室関係者のほか、東北大学資産管理課の協力を得て実施する)
- 電源バッテリー交換時(週1回)に機材の取り付け状況を特に点検する。
- 点検の結果、異常が認められた場合にはただちに補修あるいは適切な処置を行う。
- 責任者は点検の結果を下記の連絡・指示系統図に従って報告、必要な指示を行う。
- 調査地点周辺でトラブルが発生した場合には所轄警察署、消防署にただちに報告を行う。

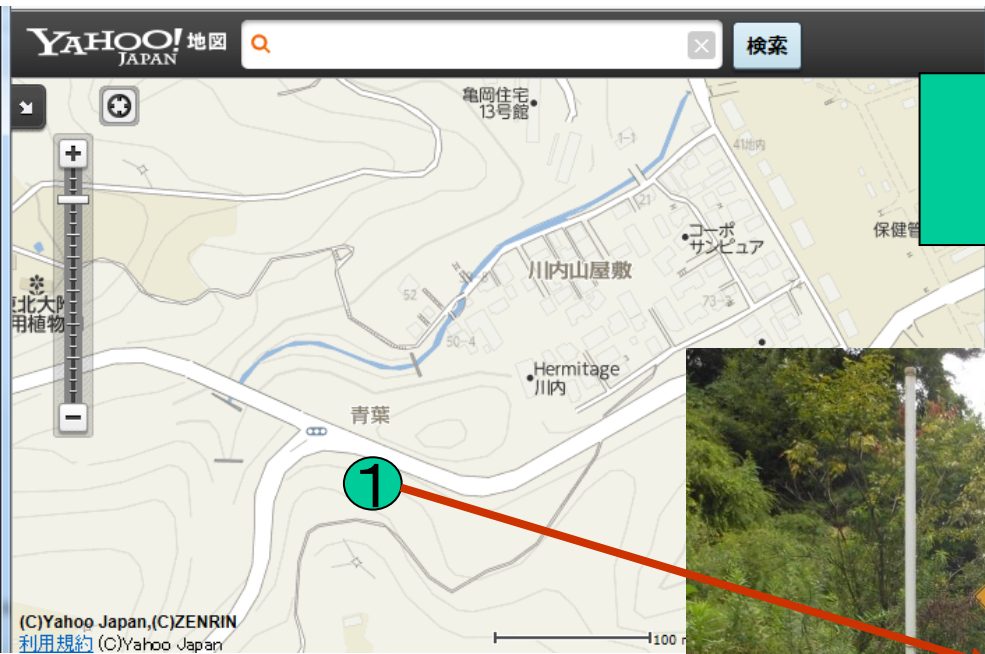
異常発見時の連絡・指示系統図



3. 器機の据え付け(撤去)

- 器機は歩行者等の通行の妨げにならないように十分注意し、据え付ける。
- 固定部が緩んで機器が落下することのないように十分注意する。

(1) 青葉橋付近



交差点注意
道路標識



(2) 八木山橋方面



駐車場
案内標識
(大学設置)



(3) 亀岡方面

カーブ道路標識
(仙台市)



(4) 青葉台方面

構内入口照明柱(大学設置)

